

勝瑞発掘だより

第12号

2005.8



「三好氏」について知ろう！



三好氏の家紋

「三階菱(さんがいびし)」

ひし形が3階建てになった「三階菱(さんがいびし)」は、三好氏のルーツとされる小笠原氏の家紋です。

勝瑞城跡公園の中にある見性寺でもいくつか見られます。さて、どこにあるかな？探してみてね。

ヒント→



三好氏のルーツ

三好氏は、鎌倉時代に阿波の守護(今の知事のような役人)だった小笠原氏の子孫と伝えられています。

そのうちの三好郡内に住んだ人たちが、「三好」と名のつたのがはじまりと考えられています。

三好家の人々 ~まさに「戦国乱世」を生きた人たち~



三好之長

(みよし ゆきなが)

三好長輝(之長)像
(見性寺蔵)

守護細川成之(しげゆき)に従って京都に出陣した。三好氏の近畿進出を始めた人。永正17(1520)年、戦に敗れ62歳で自害。



三好元長

(みよし もとなが)

三好長基(元長)像
(見性寺蔵)

之長の孫。堺を拠点として幕府の政治を動かした人。天文元(1532)年、一向一揆(いっこういっき)に敗れて31歳で自害。

三好長慶(みよし ながよし)

元長の長男。将軍足利義輝(あしかが よしてる)を京都に迎え幕府の実権を握り、3人の弟とともに畿内から四国にかけての大勢力を築いた人。三好氏の全盛期を築いたが、嫡男(ちゃくなん、あと取りのこと)義興(よしおき)、弟・義賢(よしかた)、一存(かずまさ)を次々と失ったうえ、永禄7(1564)年、家臣の言葉を信じて、最後に残った弟・冬康(ふゆやす)にむほんの疑いをかけて殺してしまい、気落ちしたまま、41歳で病死した。



←三好家の菩提(ぼだい)寺・見性寺

三好元長が祖父・之長の霊をなくさめるために岩倉(今の美馬市)にあった宝珠寺(ほうじゅじ)を勝瑞城下に移して、寺の名を改めたといわれています。現在の場所へは江戸時代中期に移されました。

→見性寺境内にある三好氏三代の墓(町指定文化財)

之長・元長・義賢・長治(ながはる)のものとされています。



裏面へ続く

長慶を支えた3人の弟

十河一存(そごう かずまさ)

元長の三男。その勇猛さに加え、見た目からも「鬼十河」と呼ばれた武将。
永禄4(1561)年、有馬温泉に行く途中に急死??

讃岐

十河一存

淡路

安宅冬康

三好長慶

阿波

三好義賢

三好義賢(みよし よしかた)

元長の次男で、良き補佐役として兄長慶を支えた。永禄元(1558)年、四国の兵を率いて畿内に入ると、高屋城(たかやじょう)を拠点に河内(かわち)国の支配を任された。

永禄5(1562)年、久米田の合戦にて35歳で戦死。

安宅冬康(あたぎ ふゆやす)

淡路の水軍を抑えて、兄・長慶の近畿地方支配を助けた。むほんを疑われ、兄・長慶によって40歳で殺された。

まさに今、発掘調査が行われている「勝瑞館跡」と守護町勝瑞遺跡東勝地地点こそ、この義賢が拠点とした館跡ではないかと考えられているのです!



← 現在、庭園の一部(池)を調査しています。まもなく、全体像が明らかになるでしょう。

茶人・三好義賢

戦に明け暮れた武将・義賢は、「実休(じっきゅう)」という号で茶道史上に名を残す茶人であり、茶を通して堺と三好家を結びつけた人でもあります。

義賢は非常に高価な「名物(めいぶつ)」と呼ばれる茶器や茶道具を約50点も持っていたそうです。当時、一番たくさん持っていた人が、茶の湯の大成者・武野紹鷗(たけのじょうおう)という人で、60点。それに次いで2番目に多かったそうです(米原正義「三好長慶とその周辺の文芸」)。

また勝瑞や後の居城・高屋城で、千利休など当時有名な茶人たちと茶会を催したという記録もあります。義賢のいた勝瑞館は、日本の先進文化の一大拠点だったのです。



勝瑞館跡から出土した茶の湯関係の遺物

(須崎 一幸)

今月のトピック

8月4日から10日まで四国大学生が実習にきました。現場に出て実際に土を掘ったり、測量の仕方を実習したり、また事務所で土器の接合などを行いました。



お知らせ

発掘調査の様子は、ホームページやAIテレビの番組でご覧になれます。また現地説明会も計画しています。

ぜひ、一度おいでください。

問い合わせ先: 藍住町教育委員会

勝瑞城館跡発掘調査事務所

TEL・FAX: 088-641-3466

URL: <http://www15.ocn.ne.jp/~shouzui/>